営農タイムリー！

～台風に備える技術対策～

2021年9月17日発行

1.水稲

（1）通過前

①既に刈取適期になっているものは、速やかに刈り取る。

（2）通過後

①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。

②成熟期に達し、倒伏した稲はできるだけ早く刈り取り、品質低下の防止に努める。特に、キヌヒカリ等穂発芽しやすい品種を優先して刈り取る。

③収穫までに日数がある場合は、無理に起こすとさらに被害を大きくする恐れがあるため、穂を茎葉の上に乗せる。株際をみて、折損していないようであれば、5～6株ずつ緩く束ねて立て寄せてもよい。

2.野菜・花き

（1）通過前

①ハウス栽培については、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材の破損部を補強し、しっかりと閉め切る。また、資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して締め直し、サイドが風であおられないよう固定する。

（参考）　園芸ハウス台風対策マニュアル

http://www.pref.kyoto.jp/nosan/news/documents/detailverall.pdf

①露地栽培については、支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかり固定する。直播きでまだ生育初期のものは、べたがけ資材等で茎葉を押さえる。その際、べたがけ資材は風にあおられないようにしっかり固定する。また、ほ場が冠水しないよう、排水路を整備する。

②果菜類では、根痛みによる草勢低下を防ぐため、摘果や若どりにより着果負担を軽減する。

（2）通過後

①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。

②液肥（500～1,000倍）を施用し、草勢の早期回復を図る。

③雨による傷から菌類が侵入し、病害の発生が予想されるため、こまめに観察し、発生初期に防除する。

④収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直す。

3.果樹

（1）通過前

①防風ネットは、柱の倒壊を防ぐため、控え線や杭を打って補強する。また、ネットの破れ目を補修しておく。

②果樹棚は、周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れないよう補強しておく。　また、棚の揺れ止め補強をしておく。

③ハウス（雨よけ含む）では、被覆が破れないように、押さえバンドで補強するとともに、ハウスごと飛ばないように、柱から控え線を張って補強しておく。

④棚利用の果樹では、棚線に枝をしっかり誘引して、枝折れや果実の落下を防ぐ（傷果防止）。

⑤幼木や若木の主枝先端が折れないように、支柱を添えて固定する。

⑥強風により落果が予想される場合は、収穫できる樹種（ナシ、ブドウ等）では、できるだけ収穫する。

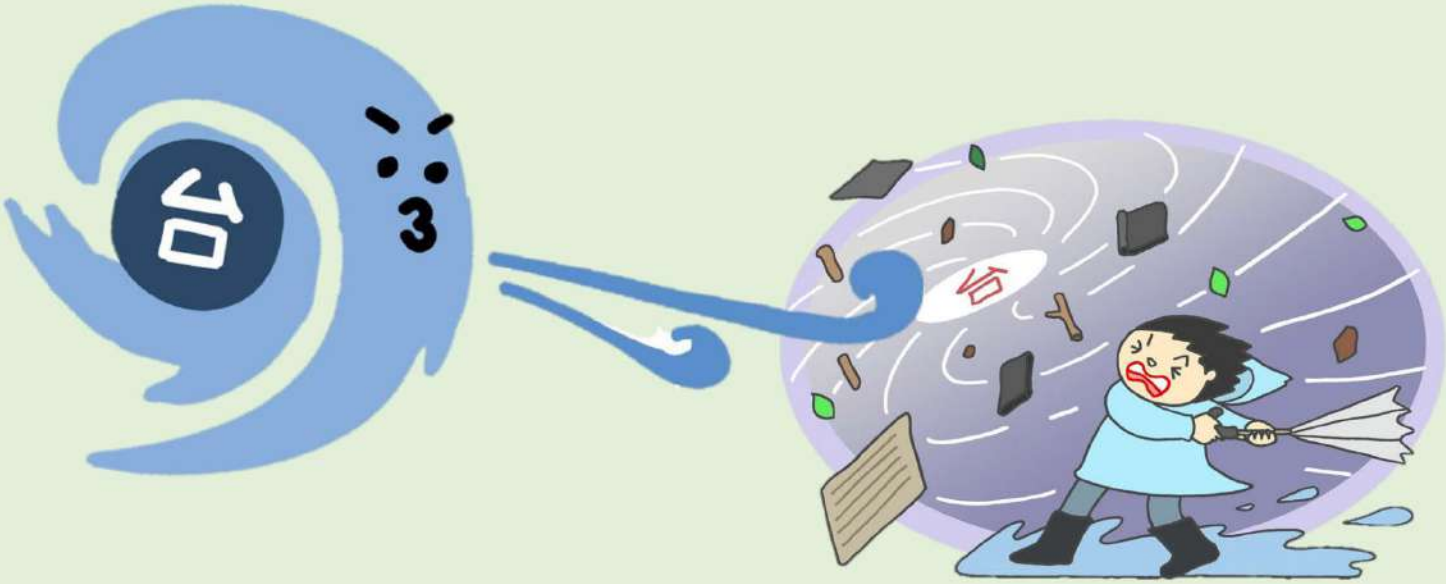
⑦排水対策（明きょ等）をしっかり行っておく。

⑧収穫の終了したハウスやトンネルでは、強風に煽られないようビニールを外しておく。

⑨ブドウではべと病、ナシでは黒星病や黒斑病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるため、殺菌剤を散布する。
なお、ナシ･ブドウは収穫時期にあたるため、登録内容の収穫前日数に注意する。

（2）通過後

①落下した果実は、園外に持ち出して処理する。

②骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を塗布する。不完全な場合は固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆う。

③冠水した場合は、速やかな排水に努める。